

第4学年 国語科学習指導案

1. 単元名・題名

読んで考えたことを話し合おう
「ごんぎつね」

2. 指導の考え方

○ 子どもの実態

本学年の子どもたちは、多くの子どもが「読むこと」の学習を好んでいるが、嫌いと答える子どももおり、国語の学習に対する興味関心の個人差が見られる。また、証拠を明らかにすること、「読み方の種」を使うこと、「読みの3点セット」を意識しながら発表することを苦手と感じている子どももいる。

これまでに「白いぼうし」「一つの花」「三つのお願い」の学習を通して、中心文をもとに、主人公の様子や気持ちを想像して「読み方の種」を活用しながら、動作化や音読、対話活動などの言語活動を通して主人公の人物像について自分の読みをつくる学習をしてきた。しかし、登場人物の気持ちの変化や性格、情景などについて叙述をもとに、想像を広げて読むことはまだ十分とは言えない。また、「読みの3点セット」については、答えを書くことはできているが、その証拠を明らかにしたり、理由付けたりして、発表したりできる子どもも少ない。一方、学習のまとめを書くことは、多くの子どもたちが抵抗なく書きまとめられると感じている。これは、板書やキーワード、赤チョークを手掛かりにして書きまとめることが定着していることへの表れであると考えられる。

○ 教材の価値・特質

本教材は、いつもひとりぼっちで生活していたごんが、自分と同じひとりぼっちになった兵十に自分の存在に気付いてほしい、兵十と分かり合いたいと願う一途な姿を描いている物語である。

文章構成の特質としては、6つの場面で構成されていて、「いたずらをするごん」「反省するごん」「つぐないをくり返すごん」「兵十の後をついていくごん」「兵十に気付いてもらっていないことを知ったごん」「兵十にうたれるごん」と展開していく。その中で、ごんの言動に着目し、ごんの気持ちを読み取ることによって、その奥底にあるごんのひとりぼっちのさみしい心の中身を読み確かめることができる教材であるので、大変意義深い。

文章表現の特質としては、心内語や類義語、文末表現などをもとに、登場人物の気持ちの変化や、登場人物同士の関係を読み取り、場面をつないで物語全体を貫いているごんのひとりぼっちのさみしい心を読み確かめるのに適した教材であると言える。

○ 指導にあたって

はじめに、「ごんぎつね」という題名から疑問をもち、冒頭から語り手が登場している意味を考える。語り手が登場し、長い間語り継がれている意図をとらえ、その理由を話し合い、題名と冒頭の読みをつないで、読みのめあてを生み出す。

次に、読みのめあてに沿って全文を読み、場面ごとにあらすじをとらえながら、語り手の心に残ったものは「ごんの〇〇な心」と予見を書きまとめる。そして、ごんのひとりぼっちでさみしい心があらわれる文を確認し、そこからもっと詳しく知りたいことを話し合う。

読み深め・読み確かめでは、場面ごとに、中心文への問いかけをもとにした書き込みの観点に沿って【書くこと①】を行い、自分の読み（答え、証拠、理由）をつくる。次に、場面と場面をつないで読む、指示語を読む、文末表現を読む、言葉をつないで読む、似た言葉を比べて読むなどの「読み方の種」を活用し、列指名や意図的指名、対話等を取り入れながら、ごんのひとりぼっちのさみしい心について【交流】し、読み深め・確かめていく。最後に、【書くこと②】として、深まった読みと活用した読み方を「今日の学習で」に書きまとめる。

最後の読みのまとめ・読み方のまとめでは、これまでの読みを振り返り、ごんのひとりぼっちのさみしい心についてまとめる。そして、ことばの大切さに気づき、考え、発見し、確かにするために、習得・活用した場面と場面をつないで読む、指示語を読む、文末表現を読む、言葉をつないで読むなどの「読み方の種」をまとめる。

3. 単元の目標

- 自分の存在に気付いてほしい、分かり合いたいと願って、兵十につぐないをくり返したにもかかわらず、死をもってしか分かり合うことができなかったごんのひとりぼっちのさみしい心を読み取ることができる。
- 場面と場面をつないで読む読み方、似た言葉や文末表現を読む「読み方の種」を習得・活用し、書く活動や交流活動を通してことばの大切さに気づき、考え、発見し、確かに行うことができる。

4. 学習計画 (全14時間)

学習過程	時	主な学習活動と内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「読み方の種」 ☆大切にすることば 	指導上の留意点・言語活動の工夫 ○【書くこと①】の観点と手だて △【交流】の観点と手だて □【書くこと②】の観点と手だて
読みのめあて	1	1 単元名とリード文、題名、冒頭をつないで読みのめあてを生み出す。 (1)単元名とリード文をもとに、学習の構えを持つ。 (2)題名から考えたことや疑問に思ったことを出し合う。 (3)語り手が登場して、長い間語り継がれている意味をとらえ、理由を話し合う。 (4)読みのめあてをつくる。	<ul style="list-style-type: none"> ・指示語を読む ☆これは ・似た言葉と比べて読む ☆お話 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 既習を想起し、題名から気付いたこと、疑問に思うことを書かせる。 △ 長い間語り継がれている意味について対話させる。 □ 書き出しを与える。
[読みのめあて] 語り手のわたしは、「ごんぎつね」のお話の何が心に残っているのだろう。				
予見	2 3 4	1 読みのめあてに沿って全文を読み通し、あらすじをまとめる。 2 予見を書きまとめる。 3 個人の予見を交流し、予見を方向付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・場面をつないで読む 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各場面のごんの様子にサイドラインを引き、最後に「ごんの○○な心」としてまとめさせる。 ○ 予見の証拠となる文や言葉に線を引き、理由付けさせる。 △ 予見を事前に分析し、グループに分けて発表させて、予見を方向付ける。
[予見] 語り手のわたしは、ごんのひとりぼっちのさみしい心が心に残った。				
学習計画	5	1 中心文をもとに読み確かめていく計画を立てる。		<ul style="list-style-type: none"> ○ 中心文を決めて、中心文のことばに疑問を持たせ、読み確かめる内容と問いかけを設定する。
[学習計画] ① いたずらばかりするごんの様子から、ごんのひとりぼっちのさみしい心を読み確かめる。 ・ どうして、「いたずらばかり」していたのだろう。 ② ほらあなの中で考えるごんの様子から、ごんのひとりぼっちのさみしい心を読み確かめる。 ・ 「あんないたずら」とは、どんないたずらだろう。 ・ どうして、「しなけりゃよかった」と考えているのだろう。 ③ 「おれと同じ、ひとりぼっちの兵十か。」と思うごんの様子から、ごんのひとりぼっちのさみしい心を読み確かめる。 ・ ごんと兵十とは何が同じなのか。 ・ どうして「兵十か。」と思ったのだろう。 ④ つぐないをくり返すごんの様子から、ごんのひとりぼっちのさみしい心を読み確かめる。 ・ どうして毎日つぐないをくり返すのか。 ・ どうして松たけまで持っていったのか。 ⑤ いどのそばにしゃがんでいたごんの様子から、ごんのひとりぼっちのさみしい心を読み確かめる。 ・ どうして二人の後をつけていったのかな。 ・ どうしていどのそばにしゃがんでいたのか。 ⑥ 「～引き合わないなあ。」と思うごんの様子から、ごんのひとりぼっちのさみしい心を読み確かめる。 ・ 「こいつ」とは何を指しているのか。 ・ どうして「引き合わないなあ」と思ったのだろう。 ⑦ ぐったりと目をつぶったままうなずいたごんの様子から、ごんのひとりぼっちのさみしい心を読み確かめる。 ・ どうして「その明るる日」も、ごんは持っていったのか。 ・ どうしてぐったりして目をつぶったままうなずいたのか。 ・ 火なわじゅうをばたりと落としたとき、兵十は何を思っていたか。				

読み深め・確かめ	<p>いたずらばかりするごんの様子から、ひとりぼっちのさみしい心を読み確かめる。</p> <p>1 どうして、「いたずらばかり」していたのか書き込む。</p> <p>6 2 書き込みをもとに話し合う。</p> <p>3 話し合ったことをもとに、「今日の学習で」に書きまとめる。</p> <p>ひとりぼっちのさみしさを紛らわすため、村中の話題になり、自分に関心をもってほしいと思うごんのひとりぼっちのさみしい心。</p>	<p>・言葉ははずして読む ☆いたずらばかり</p> <p>・似た言葉と比べて読む ☆ほり散らし</p>	<p>○ 自分の生活経験と比べさせて、夜でも昼でもいたずらばかりするのはなぜか書かせる。</p> <p>△ 「いたずらばかり」の「ばかり」をはずして読むことで、ごんのひとりぼっちのさみしい心について考え、話し合わせる。</p> <p>□ 読み確かめたごんのさみしい心や大切にしたことばを書き出しを与えて、「今日の学習で」に書かせる。</p>
	<p>ほらあなの中で考えるごんの様子から、ひとりぼっちのさみしい心を読み確かめる。</p> <p>1 どうして、「しなけりゃよかった」と考えているのか書き込む。</p> <p>7 2 書き込みをもとに話し合う。</p> <p>3 話し合ったことをもとに、「今日の学習で」に書きまとめる。</p> <p>自分のいたずらのせいで、兵十のおっかあがうなぎを食べたいと言いながら死んでしまったと思込むごんのひとりぼっちのさみしい心。</p>	<p>・場面をつないで読む</p> <p>・指示語を読む ☆あんな</p> <p>・文末表現を読む ☆ちがいない</p>	<p>○ どうしてしなけりゃよかったと考えているのか、分かる文にサイドラインを引き、前場面とつないで書かせる。</p> <p>△ 答え・証拠・理由が明確になるように板書を整理し、ごんのひとりぼっちのさみしい心について話し合わせる。</p> <p>□ 前時と同じように読み確かめたごんのさみしい心や大切にしたことばを「今日の学習で」に書かせる。</p>
	<p>「おれと同じ、ひとりぼっちの兵十か。」と思うごんの様子や気持ちから、ひとりぼっちのさみしい心を読み確かめる。</p> <p>1 ごんと兵十とは何が同じなのか書き込む。</p> <p>8 2 書き込みをもとに話し合う。</p> <p>3 話し合ったことをもとに、「今日の学習で」に書きまとめる。</p> <p>ごんには誰一人そばにいてくれる人がいないさみしさを知っていて、兵十にも自分と同じさみしさをあじあわせてしまったと思うごんのひとりぼっちのさみしい心。</p>	<p>・場面をつないで読む</p> <p>・句読点を読む ☆おれと同じ、</p> <p>・文末表現を読む ☆兵十か</p>	<p>○ 兵十とごんの何が「同じ」なのか、分かる文にサイドラインを引き、前場面とつないで、分かることを書かせる。</p> <p>△ 答え・証拠・理由が明確になるように板書を整理したり、前の場面の掲示物を用いたりして、ごんのひとりぼっちのさみしい心について話し合わせる。</p> <p>△ 「兵十か」と「兵十だ」を音読させ、気持ちを考えさせる。</p> <p>□ 前時と同じように書きまとめさせる。</p>
	<p>つぐないをくり返すごんの様子から、ひとりぼっちのさみしい心を読み確かめる。</p> <p>1 どうして松たけまで持っていったのか書き込む。</p> <p>9 2 書き込みをもとに話し合う。</p> <p>3 話し合ったことをもとに、「今日の学習で」に書きまとめる。</p> <p>うなぎのつぐないが、「なんとしても自分の存在と思いを分かかってほしい。」「兵十に気付いてほしい。」という思いに変わり、つぐないをし続けるひとりぼっちのさみしい心。</p>	<p>・言葉を比べて読む ☆拾っては</p> <p>・言葉を比べて読む ☆持ってきてやりました。 ☆持っていきました。</p>	<p>○ どうしてくりばかりでなく、松たけも持っていったのか、分かる文にサイドラインを引き、そこから、分かることを書かせる。</p> <p>△ 答え・証拠・理由が明確になるように板書を整理したり、掲示物を用いたりして、ごんのひとりぼっちのさみしい心について話し合わせる。</p> <p>□ 前時と同じように書きまとめさせる。</p>

	<p>いどのそばにしゃがんでいたごんの様子から、ひとりぼっちのさみしい心を読み確かめる。</p> <p>1 どうしてしゃがんでいたのか書き込む。</p> <p>2 書き込みをもとに話し合う。</p> <p>3 話し合ったことをもとに、「今日の学習で」に書きまとめる。</p> <p>兵十のうちに、くりやまつたけを毎日毎日持っていったことに気付いてくれるかもしれないと期待しているごんのひとりぼっちのさみしい心</p>	<p>・場面をつないで読む</p> <p>・言葉をつないで読む</p> <p>☆つけていきました</p> <p>☆しゃがんでいました</p>	<p>○ ごんはどうしていどのそばにしゃがんでいたのか分かる文にサイドラインを引き、そこから、分かることを書かせる。</p> <p>△ 答え・証拠・理由が明確になるように板書を整理したり、前の場面の掲示物を用いたりして、ごんのひとりぼっちのさみしい心について話し合わせる。</p> <p>□ 前時と同じように書きまとめさせる。</p>
<p>11</p> <p>【一組本時】</p>	<p>「～引き合わないなあ。」と思うごんの様子から、ひとりぼっちのさみしい心を読み確かめる。</p> <p>1 どうして「引き合わない」のか書き込む。</p> <p>2 書き込みをもとに話し合う。</p> <p>3 話し合ったことをもとに、「今日の学習で」に書きまとめる。</p> <p>自分に気付いてほしいと期待していたのに、神様だと思われていたことが分かり、自分に気付いてもらえず、がっかりしているごんのひとりぼっちのさみしい心</p>	<p>・言葉を比べて読む</p> <p>☆ついていきました</p> <p>・指示語を読む</p> <p>☆こいつ</p> <p>・場面をつないで読む</p> <p>・文末表現を読む</p> <p>☆引き合わないなあ</p> <p>・繰り返しを読む</p> <p>☆おれ</p>	<p>○ 「～引き合わないなあ。」とはどうしてなのか、また、そのときのごんの気持ちが分かる文にサイドラインを引き、前の場面とつないでそこから分かることを書かせる。</p> <p>△ 答え・証拠・理由が明確になるように板書を整理したり、前の場面の掲示物を用いたりして、ごんのひとりぼっちのさみしい心を話し合わせる。</p> <p>□ 前時と同じように書きまとめさせる。</p>
	<p>ぐったりと目をつぶったままうなずいたごんの様子から、ひとりぼっちのさみしい心を読み確かめる。</p> <p>1 どうしてぐったりして目をつぶったままうなずいたのか書き込む。</p> <p>2 書き込みをもとに話し合う。</p> <p>3 話し合ったことをもとに、「今日の学習で」に書きまとめる。</p> <p>死をもってしか兵十に気付いてもらえなかったごんのひとりぼっちのさみしい心。</p>	<p>・呼び方の変化を読む</p> <p>☆ごん</p> <p>・言葉をはずして読む</p> <p>☆くりが固めて</p> <p>☆ぼたりと落としました</p> <p>・情景を読む</p> <p>☆青いけむり</p>	<p>○ ごんはどうしてぐったりしているのになずいたのか分かる文にサイドラインを引き、そこから、分かることを書かせる。</p> <p>△ 答え・証拠・理由が明確になるように板書を整理したり、前の場面の掲示物を用いたりして、ごんのひとりぼっちのさみしい心を話し合わせる。</p> <p>□ 前時と同じように書きまとめさせる。</p>
<p>読み・読み方のまとめ</p>	<p>1 読みのまとめをする。</p> <p>(1)ごんのひとりぼっちのさみしい心について話し合う。</p> <p>(2)題名について話し合う。</p> <p>(3)兵十の後悔について話し合う。</p> <p>〔読みのまとめ〕</p> <p>語り手は、ごんと兵十の心が通い合うことのなかった悲しさやさみしさが語り手の心に残った。</p> <p>(4)「ごんぎつね」を読んで、感じたことを話し合う。</p> <p>2 「読み方の種」のまとめをする。</p> <p>・場面と場面をつないで読む</p> <p>・繰り返しを読む・文末表現を読む</p>		<p>○ 各場面のごんのひとりぼっちのさみしい心の中身をつないで、答え（読みのまとめ）を書かせる。</p> <p>△ 各場面のごんの気持ちをふり返られるように掲示物を使わせる。</p> <p>□ 兵十や加助がどうしたかを想像し、話し合わせて題名にもどり、詳しく読んだごんのひとりぼっちのさみしい心をもとに、自分の思ったことをごんへの手紙にまとめさせる。</p>
<p>関連</p>	<p>1 きつねが登場する物語を読んで、「ごんぎつね」と比べる。</p> <p>(1)読んだ感想を「ごんぎつね」と比べながら書く。</p>		<p>△ 児童が興味・関心を持ち、進んで取り組めるように、きつねが登場する物語を数種類用意する。</p>

第4学年 組 (公開授業②)

5. 本時 (11/14) 読み深め・読み確かめ

6. 本時の目標

- 兵十のためにつぐないをしているのに、気付いてもらえなかったごんの様子や気持ちを読み取り、ごんのひとりぼっちのさみしい心を読み確かめることができる。
- 言葉をつないで読む、場面と場面をつないで読む、文末表現を読む、指示語を読む、くり返しを読むという「読み方の種」を習得・活用し、書く活動や交流活動を通して「引き合わないなあ」のこぼれもつ大切さに気づき、考え、発見し、確かにすることができる。

7. 本時指導の考え方

前時まで、子どもたちは、学習計画に沿って3の場面のつぐないをくり返すごんのひとりぼっちのさみしい心について読み確かめている。

本時は、兵十のためにつぐないをしているのに、気付いてもらえなかったごんの様子や気持ちを読み取り、ごんのひとりぼっちのさみしい心を読み確かめる学習である。

そのために、まず、中心文と中心文への問いかけを想起し、それらを解決することでごんの様子や気持ちを読み取り、ごんのひとりぼっちのさみしい心を読み確かめられることを確認する。

次に、視点に沿って書き込み、話し合いをする。書き込みの視点は、①「こいつ」とは何を指しているのか。②どうして「引き合わないなあ」と思ったのか。である。

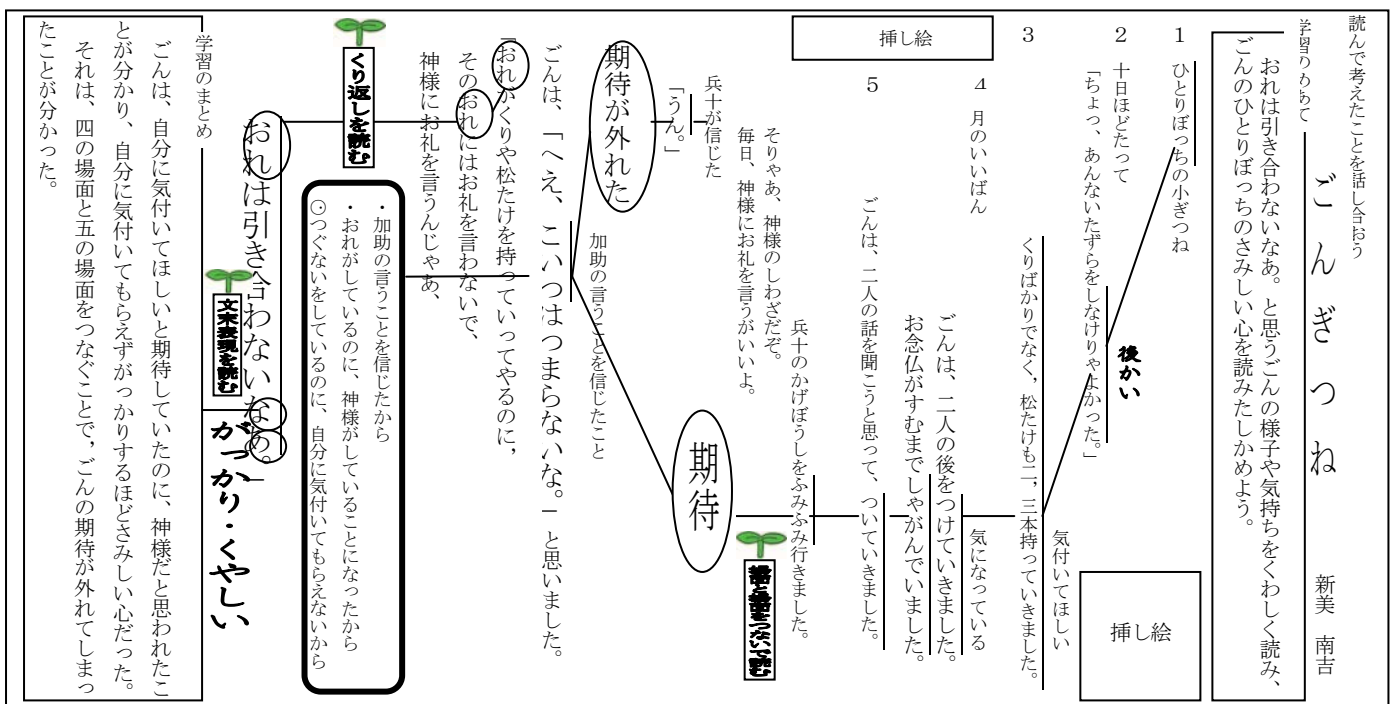
そして、話し合いの際には読みの3点セット(答え・証拠・理由)を意識させる。その中で、どうして「引き合わないなあ」と思ったのかについては、自分に気付いてもらえないからという考えは出にくいだろうと予想される。そこで、文末表現に気付かせ、対話活動を取り入れることによって、ごんは気付いてもらえないくやしきがあることやがっかりした様子を読み確かめる。さらに、「おれが」「おれには」「おれは」のくり返しを読むことで、自分に気付いてほしいことが分かるようにする。

以上の活動を取り入れることで、「引き合わないなあ。」に込められたごんの様子や気持ちを読み深めることができる。と考える。

最後に、ことばを確かにするために、交流によってさらに深まった読みと板書をもとに「今日の学習で」に読み確かめたこと・「読み方の種」・感想を書きまとめる。

考えのまとまらない子どもには、板書やキーワード、赤チョークでつながれた箇所などを手がかりにして書きまとめるよう支援していく。

8. 板書計画



9. 本時の展開

学習活動と内容	指導上の留意点・言語活動の工夫 ○書くこと① △交流 □書くこと② ☆「読み方の種」
1 本時めあてを確認する。 (1)前時までを想起する。 (2)本時場面を音読し、中心文と問いかけを確認する。	※ 掲示物をもとに、前場面を振り返らせる。
[学習のめあて] おれは引き合わないなあ。と思うごんの様子や気持ちをくわしく読み、ごんのひとりぼっちのさみしい心を読みたしかめよう。	
2 書き込みの視点に沿って、書き込みをする【書くこと①】。 ・中心文までのあらすじをとらえること。 ・ごんの様子や気持ちが分かりそうな文や言葉から、「読み方の種」を使って書き込みができそうだと見通しをもつこと。 ・つなぐ言葉や場面の見当を付けることができること。	○ 書き込みの視点をつくるために、どのように考えれば、答え、証拠、理由付けの3点セットを書くことができそうか、見通しをもたせる。
[書き込みの視点] ① 「こいつ」とは何を指しているのか。 ② どうして「引き合わないなあ」と思ったのか。	[見通しのもたせ方] →直前の言葉や文から探す →文末表現を読む・場面と場面をつないで読む (読み確かめたことも含めてまとめるという)
3 書き込みをもとに話し合う。 (1)「こいつはつまらないな。」のときの「こいつ」は何かを明らかにする。 ① 神様のしたことだという加助の言うことを信じたこと (2)「引き合わないなあ。」のときのごんの気持ちについて話し合い、再書き込みをし、交流する【交流】。 ・「引き合わないなあ。」の文末表現を考えること。 ・「おれ」の三回のくり返しの意味を考えること。 ② おれがしているのに、神様がしていることになった加助の言うことを信じた つぐないをしているのに、気付いてもらえない →自分に気付いてもらえず、がっかり・くやしい	☆ 「引き合わないなあ。」 文末表現を読む・場面と場面をつないで読む △ 答え、証拠、理由付けの3点を、構造的に板書していく。 △ 「読み方の種」を、適宜板書に位置付ける。 △ 「つけていきました。」「ついていきました。」「ふみふみ行きました。」から、ごんの変化に気付かせる。 ☆ 「つけていきました。」「ついていきました。」「ふみふみ行きました。」 …言葉をつないで読む △ 読みを深めるために、対話活動を取り入れる。 △ 「引き合わないなあ。」の文末表現や「おれ」の三回のくり返しの意味に気付かせ、自分に気付いてもらえないことやくやしさをとらえさせる。 ☆ 「おれ」…くり返しを読む
4 読み確かめたことと、「読み方の種」、本時のごんに対する感想を書きまとめる【書くこと②】。	□ 読み確かめたことと、使った「読み方の種」については、必ず書きまとめられるよう、書き始めの言葉を与える。 □ 自分の生活経験や実体験等と結び付けさせて書かせる。
[学習のまとめ] ごんは、自分に気付いてほしいと期待していたのに、神様だと思われたことが分かり、自分に気付いてもらえずがっかりするほどさみしい心だった。 それは、4の場面と5の場面をつなぐことで、期待が外れてしまったことが分かった。 わたしは、今日のごんがとてもかわいそうだと感じました。あんなに兵十のために毎日くりやまつたけを持っていったのに、気付いてもらえなかったからです。今までひどいいたずらばかりをしてきたけど、もし気付いてもらえたら、きっとわかってくれると思います。	

